

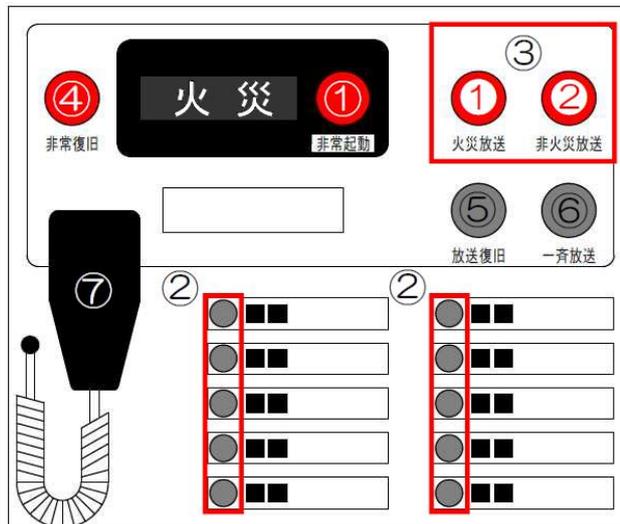
【非常放送設備】

1 非常放送設備について

非常警報設備としての放送設備を一般的に非常放送設備と言います。

自動火災報知設備と連動して作動する場合が多く、火災時以外は業務用の放送設備として使うことができます。

操作部



- ①非常起動ボタン
- ②階別選択ボタン
- ③音響警報
 - ①火災放送ボタン
 - ②非火災放送ボタン
- ④非常復旧ボタン
- ⑤一斉放送ボタン
- ⑥放送復旧ボタン
- ⑦マイク

2 使用方法

(1) 自動火災報知設備と連動している場合（自動放送）

あらかじめ設定してある手順に従い自動的に非常放送を行います。

確認中の放送や火災の放送中であっても、マイクのスイッチ（プレストークボタン）を入れると、マイク放送が最優先されます。

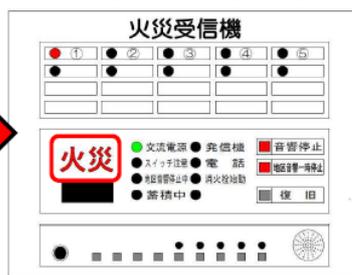
火災の放送中に非火災ボタンを押すと非火災放送に切替わります。

（火災放送/非火災放送のボタンが優先されます。）

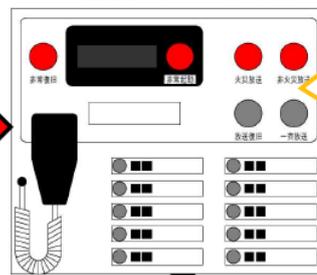
熱や煙を感知



自動火災報知設備が作動



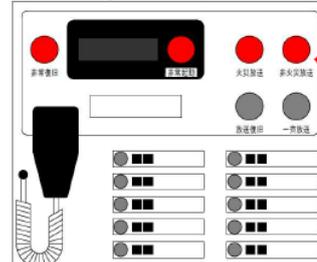
確認中の放送



ただいま、〇階の火災感知器が作動しました。確認していますので、次の放送にご注意ください。

一定時間経過
他の信号を受信

火災の放送



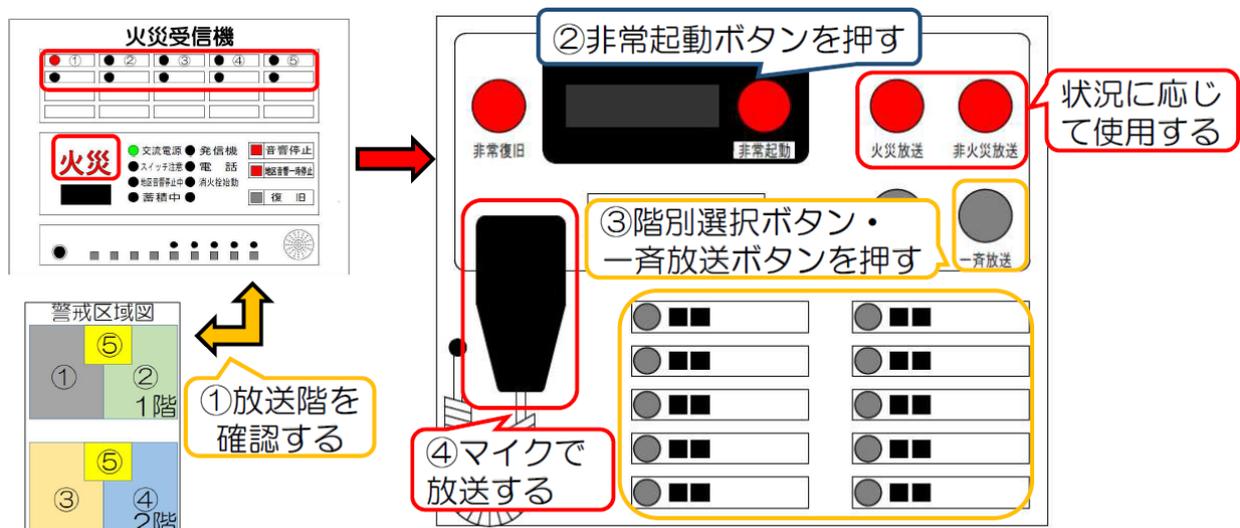
火事です、火事です。〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。

状況に応じて火災放送ボタン又は非火災放送ボタンを押す。



(2) 自動火災報知設備と連動していない場合（手動放送）

- ①自動火災報知設備の受信機及び警戒区域図で放送階を確認する。
- ②非常起動ボタンを押す。
- ③階別選択ボタンで放送階を選択又は一斉放送ボタンを押す。
- ④マイクで放送する。（状況に応じて火災放送ボタン又は、非火災放送ボタンを押してください。）



※非常起動ボタンを押すことにより、業務用の放送がカットされ、非常放送が優先して流されます。

※非常放送では、マイク放送が設定された音声より優先されます。

【マイクでの放送文例】

始めに発信元を伝えましょう。

（「防災センター（守衛室）からお知らせします。」など）

【自動火災報知設備が鳴動】

○階で火災信号を受信しました。

ただいま確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

【火災を確認】

ただいま、○階で火災が発生しました。

お客様は、係員の指示に従い避難してください。

避難の際は、エレベーターは使用しないでください。」

【火災が鎮火】

○階の火災は鎮火しました。ご安心ください。

【非火災の場合】

さきほど、○階の自動火災報知設備が作動しましたが、調査の結果、異常ありませんでした。ご安心ください。

※明確な口調で3回程度繰り返しましょう。